

# 日本地衣学会

# No.13

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告.....	43
	第1回青空地衣教室(報告).....	43
	会員通信.....	44
	企画展「驚異の地衣類」その2 極限環境に生きる.....	44

## 会務報告 Reports of the JSL Activities

### 第1回青空地衣教室(報告)

第1回青空地衣教室は、2003年2月1日、箱根やすらぎの森(神奈川県箱根町)で行われました。正午頃は吹雪いていた雪も集合時刻にはおさまって、7人(今井さん、小山内さん、大村さん、角田さん、中村さん、安斉さん、木下)で観察を始めました。

今回の観察場所は前年6月と同じ場所で、そのときの原田講師の説明を思い出しながらの観察となりました。

駐車場近くの民家の石垣に着いたツメゴケ属地衣は、乾いて白っぽい個体と湿って濃い色の個体とがあり、状態によって見え方が大きく違うことを再認識しました。また6月に観察したときには「ツメ」に見える子器の数がもっと多かったように思われたのに貧弱な子器が少ししか見られず、季節による違いを思わせられました。前回と違っていたものは他にアカミゴケの仲間があります。6月にはブロック塀の上でヒメレンゲゴケの茶色の実と競うようにして「赤い実(子器)」を付けていた子柄の先が、消えたロウソクの芯のようにしぼんでいました。しかしながら箱根では、まだ日陰には残っているほどに半月ほど前に積雪があり、そのために折れたりしたのかもしれませんが。アカミゴケ類も季節で変化がある

のかどうか、観察すればおもしろいかもしれません。

その横にブロックで覆われた斜面があるのですが、そこが安斉さん発見のコケ(蘚類)着生のおもしろい生態を見られる場所です。このブロックは上の方が凹のブロック、下半分が凸のブロックが使われているのですが、凹ブロック全面と凸ブロックの周縁部にびっしりコケが付いているのに凸ブロックの凸部分だけはブロックの生地のコンクリートがむき出しのままに残っています。ほんの少しの水の流れの差がコケの着生を左右していると推測されます。

やすらぎの森の中のカエデの木は前回と同じように、地衣の陳列台のように多数の地衣を見せてくれていました。マツゲゴケ、タハカシウメノキゴケ、センシゴケ、クサビラゴケ、オオカノコゴケ、モジゴケの仲間、など。まったくカエデはどうしてこんなに地衣たちと仲がよいのか、不思議に思います。

このころからぶり返した雪がひどくなってきました。安斉さん力作のテキストの表紙を飾っている「キウメノキゴケと箱根外輪山」の美しいコントラストを楽しめるポイントに移ったものの、降る雪で外輪山は全く見えず。遊歩道脇の岩に付いたオオキゴケやヘリトリゴケも雪



図1. 第1回青空地衣教室は雪中地衣教室となつてしまった。

に覆われはじめ、樹幹のアオゾメサネゴケは見られたものの、切り株のコナアカミゴケは積もった雪を吹き飛ばしても見つからずでした。

冬は雑草で地衣が覆われることも少なく虫もいない点で地衣観察のしやすい季節なのですが、天候が悪いと寒くなり今回のように雪にたたられることもあります。箱根は交通の便がよいのですが、標高がそれなりに高い（今回の観察場所は海拔約800m）ので、冬の観察には天気の良い日を選ぶ必要があると思い知らされました。

(木下靖浩:地域活性委員会)

## 会員通信 From Members

### 企画展「驚異の地衣類」その2. 極限環境に生きる

本誌12号(pp.40-41)に引き続き、千葉県立中央博物館で開催されている企画展「驚異の地衣類」(入場無料)の紹介をさせていただきます。

#### 驚異というより目から鱗か

企画展示室左手のウォールケース(延長約20m)では、身近な低地から始まって高山にいたる、各植生帯ごとに地衣類を見ていくことができる。

最初は低地・垂直植生帯では丘陵帯であり、水平植生帯では暖温帯あるいは照葉樹林帯に相当するが、あまり難しい言葉を使っても解りにくいため、「低地 - 房総の地衣類」というタイトルとした。山地(冷温帯、落葉広葉樹林帯)については「山地 - ブナ林の地衣類」とした。ついで「亜高山帯 針葉樹林の地衣類」。ここだけ「亜高山帯」としたのは、なじみやすい適当な言葉が無かったため。最後は「高山 - 極限の環境を彩る」。

このように低地から高山まで一通り見るなかで、観覧者の印象に残るのはアンケートによると、例えば「コンクリートのオレンジ色の染みが、じつはダイダイゴケという地衣類であること」とか、「ブナの幹の模様と思っていたのが、じつは地衣類である」とか、「富士山五合目のミヤマハナゴケの“お花畑”」と



図1. 亜高山帯のコーナー、カラマツの枝(この展示のため積雪1mのなかを採りに行ってくれた安齊唯夫さんと、採取を許可いただいた早稲田中・高等学校(鈴蘭寮)に感謝)と大きな写真が雰囲気伝える。

か、「富士山頂 3776m に生えるロウソクゴケモドキ」である。小学生が書いたアンケートの中には気に入った展示物として「ヒモみたいなのが生き物」（ブナ林に見られるヨコワサルオガセのこと）というのもあった。私の原体験としても、高校生のとき初めて見たナガサルオガセや、大学生のとき初めて見たハナゴケ群落の印象が強烈だったことを覚えている。

ここまでで、企画展の当初の目的、「地衣類について知ってもらおう」ということの大半は果たすことができたと思う。しかし、それだけで終わらないのが、この展示の「驚異」ところである。

### 驚異の巨大ヘリトリゴケ

和歌山県古座川町「一枚岩」の巨大ヘリトリゴケと言えば、本誌読者はもう何のことかお解かりであろう。最大のもので直径約 1.8m、推定年齢約 1300 歳というヘリトリゴケのことだ。最初の報告は南紀生物(2001 年 12 月)に掲載された論文だったが、その後、そのときの調査の様子の写真が地衣学会誌 Lichenology 創刊号(2002 年 7 月)の表紙を飾り、普及書「校庭のコケ」(2002 年 9 月)のコラムになったりした。更には昨年 10 月以降には近畿地方の数紙に取り上げられたとも聞いた(例えば、紀伊民報 AGARA のホームページでは今でも紹介されている：[http://www.agara.co.jp/DAILY/20021027/20021027\\_004.html](http://www.agara.co.jp/DAILY/20021027/20021027_004.html))。まだ関東地方では一般の方の目に触れる機会は無かったので、ほとんどの来館者がご存じないはずだ。観覧者のアンケートによると、一番印象に残った展示物の筆頭に挙げられる。

展示自体は 135cm x 90cm あるいは 120cm x 140cm に引き伸ばした写真 3 枚が主体で、これにそのとき採取された標本などと、いたってシンプルである。私自身、この写真をこの企画展以前に何度も見ているのだが、これだけ大きくしてみると、全く別物、という印象を受ける。大きく伸ばした写真は迫力がある。撮影された木本隆三さんの腕も良かったということか。

ちなみに他のコーナーでも 135cm x 90cm あるい



図 2。「驚異の巨大ヘリトリゴケ」のコーナー。観覧者からは「ほー」とか、「へー、すごいねえ」といった声が聞かれる。

は 90cm x 60cm の写真を多数使用している。これで現場の雰囲気観覧者によく伝わると思う。

### 海岸の地衣類

岩礁海岸の潮間帯から飛沫帯にかけて地衣類の垂直分布帯が見られることは、欧米ではよく知られている一方で、日本では一般にはほとんど知られていないのではないだろうか。その理由の一つに、きれいな帯状分布の見られる場所がないことが挙げられる。今回の展示では、千葉県内の 2 箇所、銚子と大房岬を取り上げたが、きれいな帯状分布の現場がないので、上のようなことを示すには至らなかったのが残念だ。

日本の潮間帯に出現する地衣類は、アナイボゴケ属 (*Verrucaria*) 数種とウシオゴケ (*Pyrenocollema halodytes*) である。これらの分類は私が専門とするところであり、この展示にはさりげなく研究成果を盛り込んである。海藻フクロフノリとともに生えるアナイボゴケ属の標本をご覧いただける。虫眼鏡も設置してあるので、何とかその形が確認できると思う。ここでも威力を発揮しているのが写真だ。ヨロイイソギンチャク類とフ



図3. 潮間帯のアナイボゴケ。虫眼鏡がおおいに役立つ。

クロフノリの中に生えるアナイボゴケ属や、クサイロア

オガイとイワフジツボの周りに生える様子も大伸ばしで見ることができる。

これで企画展の半分くらいまできた。残るは「地衣成分 - 地衣類が作る化学物質」, 「地衣類の培養」, 「当館における調査研究, 資料収集」。これに加えて, トピックス8コーナーがある。

月曜休館(ただし月曜が休日の場合は, 火曜休館), 入場無料。ホームページは: <http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/index.htm>

(原田 浩: 千葉県立中央博物館)

### 複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。  
Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muji.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.  
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

### Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).  
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan. Tel: 81-3-3475-5618.  
Fax: 81-3-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muji.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.  
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

### 原稿募集

ニュースレターは原稿が集まり次第、随時発行します。一般会員からの声を掲載したいと思いますので、ふるってご投稿ください。質問や、こんな記事を掲載して欲しいなどのご要望も承ります。

*Lichenology* 日本地衣学会ニュースレターとも、投稿先は:

原田 浩・〒260-8682千葉市中央区青葉町955-2  
千葉県立中央博物館。Fax 043-266-2481。  
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

### 後記

前号では「服部植物研究所高知分室の紹介」を予告しましたが、次号以降にさせていただきます。

(原田浩: 編集委員長)

### 日本地衣学会ニュースレター 13号

発行日: 2003年3月20日

編集: 原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄  
発行者・発行所: 日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内